

ハワイ真珠湾のアリゾナ記念館を訪ねて

川根本町遺族会 中野秀男

私は6年前、国主催の慰霊友好親善団に県遺族会の一人として参加し、父親の埋葬地がある旧ソ連チタを訪ね、積み積もった父への深い思いを胸に参拝する事ができました。

このたびは機会があって、ハワイオアフ島の真珠湾へ家族と息子夫婦とで行ってきました。今から75年前、昭和16年、日米開戦、真珠湾攻撃のことや現在の様子を知ることができました。

特に戦艦アリゾナ記念館では、太平洋の平和を求めるシンボルとして、撃沈された当時の姿そのまま何百人の戦死した兵士と共に海中に浮かせてありました。墓標そのものでした。係の人の説明によると、約2時間の真珠湾攻撃により、日本人の軍人60人、アメリカの軍人、民間人合わせて約3,000人が戦死されたとのことでした。毎年、170万人以上の人々がこの記念館をおとずれ、戦争の残酷で悲惨な情景を目にして平和の尊さをかみしめています。私たちも記念館の海の中に眠る兵士のことなどを思い生涯忘れる事の出来ない感動をおぼえました。

この記念館には海の中に眠る戦死者の名が一人ひとり書かれていました。その遺族の一人は語っています。「大事な主人、大黒柱が戦死した悲惨な戦争をどうしてもやらなければならなかったのか。中止することはできなかったのか。」と私達遺族と同じ思いです。

勝っても負けても戦争は悲惨なことです。今後、このような戦争は二度とやらないこと私達遺族は共に同じ気持ちであることを体験し、平和の尊さを願ったハワイへの旅でした。

(平成29年4月発行の静岡県遺族会報より)